

「納税に対する考え」

神戸市立大池中学校3年1組
籠谷かごたに
咲穂さほ

「税：か。」

税についてのパンフレットを手にした時、

いかに自分が税について知らなかったのか分

かった。揮発油税、狩猟税、印紙税。初めて

聞いたものが多くある中、私は入湯税に興味

を持った。「温泉に入るだけで税金を支払う

必要があるのだろうか。」という疑問と、「消

費税以外にも自分が支払っている税金があつ

たんだ。」という驚きがあり、詳しく調べて

みることにした。

入湯税とは、日本独自の税であり、温泉を
使った入浴施設で温泉に入った時に発生する
地方税のことである。入湯税として集まった
お金は環境衛生施設の設備費用や、観光に関
わる費用、温泉の維持管理に充てられている。
入湯税の額は市町村で定めることができ、有
馬温泉のある神戸市では宿泊を伴う入湯の場
合、一泊につき一人百五十円とされているそ
うだ。では、実際に入湯税はどのように役立
っているのか。温泉が日本を代表する観光資

源であることは言うまでもないだろう。そして温泉は、私たち日本人にとって馴染み深くとても身近な存在だと思う。その温泉の設備が整っていないければ、大切な日本文化である温泉が綺麗に保たれていないかもしれない。

先日、有馬温泉の温泉街を歩くと新たな気付きがあった。それは、温泉に入る以外にも温泉宿、温泉街などの景観を守ることにも入湯税の立派な役目だということ。食べ歩きをしたり、お土産を買ったり、足湯を楽しんだり、

私は知らず知らず、税に支えられているもので楽しい時間を過ごしていた。また、旅行先で手に取る観光パンフレット。これも入湯税が関わっている。無料で配布する観光パンフレットを充実させ、より多くの人に見てもらう為に私達が必要とされている。そして観光客に私達のまちの魅力が伝わっていく。このような流れが税によつて施されているんだと気付いた。

私達は税についてより一層理解を深めるべ

きだと思う。私は入湯税というものがあると知った時「入湯税って必要あるのかな。」と思っ
てしまった。他にもそう思う人はいると思う。それは、私達が税金に対して「支払わなければならないもの」と感じているからではないだろうか。確かに納税は国民の義務である。しかし、先ほど述べた入湯税以外にも、医療やごみ収集が無料で提供されるなど税によつて私達の生活は豊かになっている。そしてとん税、ゴルフ場利用税など私達がよく知

らない税がある。これにもきちんとした使い道が存在する。日本人として生きていくからには、これらの税も蔑ろにしてはいられない。私はこれから、税金に対して「めぐりめぐって自分や大切な人達に返ってくるもの」という考えをもって納めたい。また、時代に合った税の在り方について考え続けていきたい。